

人財育成（品質技術者の育て方）

人財育成(品質技術者の育て方)

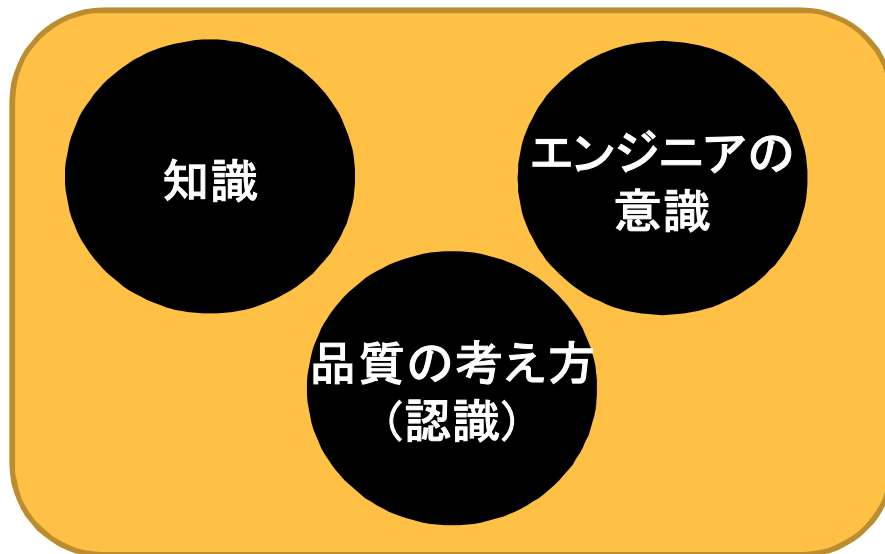
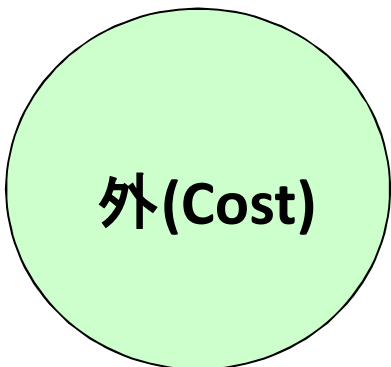
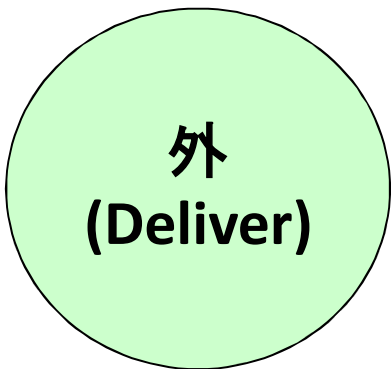
第2回 「人財育成」というが具体的には何を求めるのか？

外向き
(チーム)



教育・育成(何を、どのように)

Dev・Test 連携



One for All.
All for One.

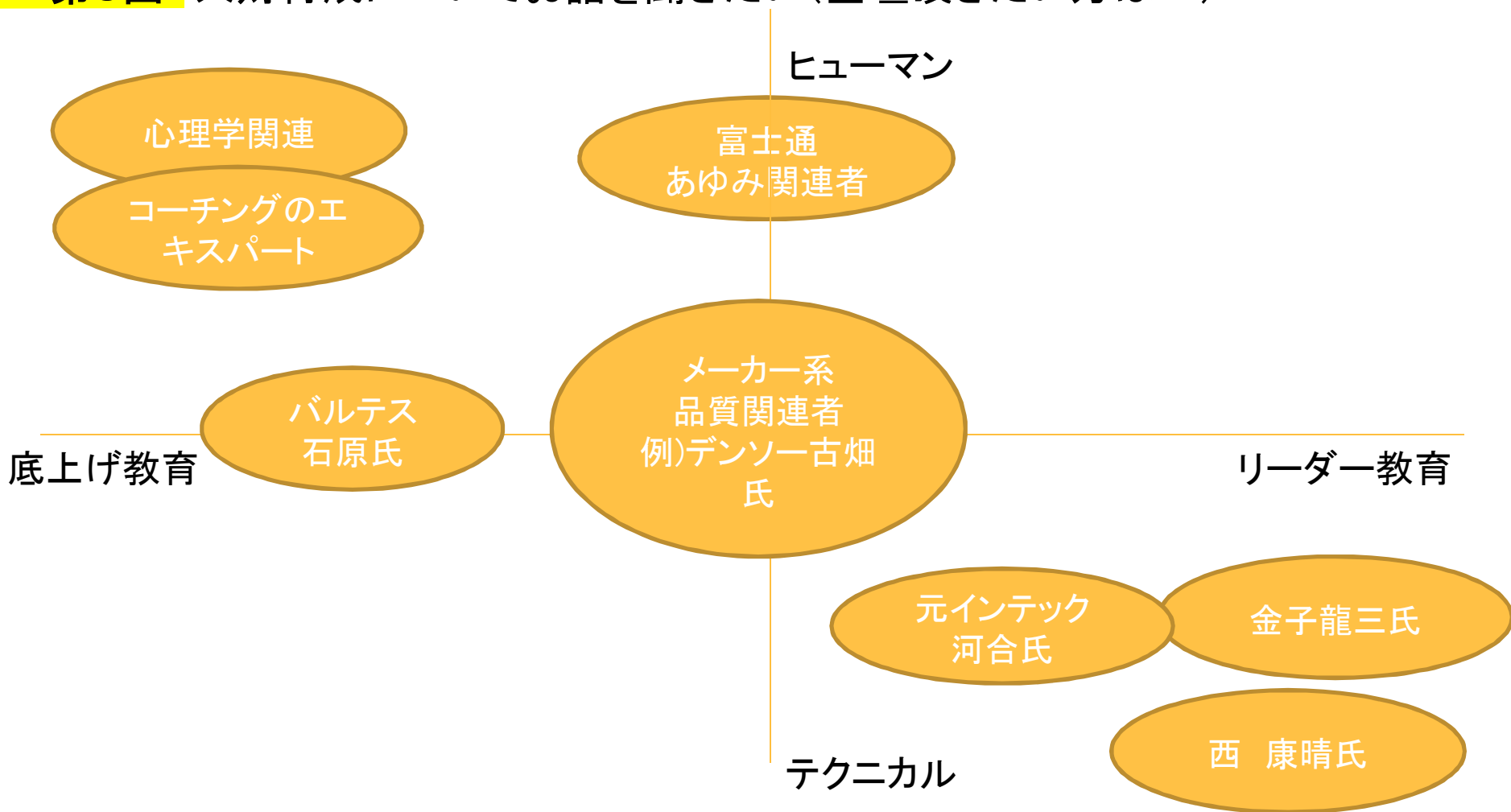
次第に良くなる

A yellow line graph showing an upward trend with some fluctuations, ending in an arrowhead pointing towards the top right.

内向き(個人)

人財育成(品質技術者の育て方)

第3回 人財育成についてお話を聞きたい(登壇頂きたい方は?)



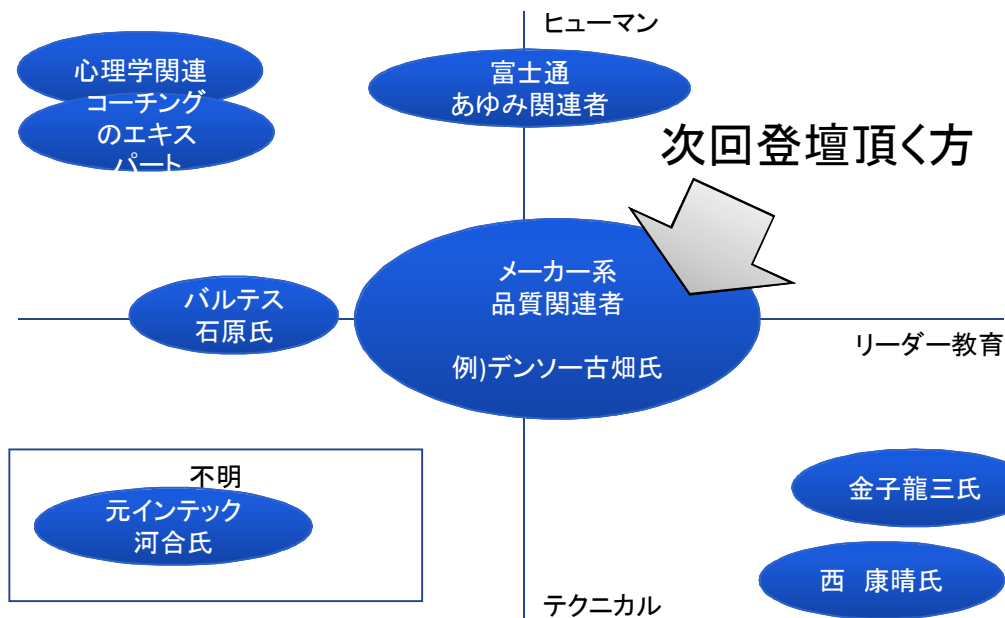
人財育成(品質技術者の育て方)

第4回 自社の状況から考える？

■ 再度どのような「教育」を望むのか？を自社の状況から考える

- 提供された機能の実現“だけ”を実装し品質を高めるという意識が欠けている
- 自社で受け入れる品質に対する意識は高いが知識が欠けている

幅広くバランスのとれた人財教育が必要では？



人財育成(品質技術者の育て方)

第4回 自社の状況から考える

外向き
(チーム)

情報共有
チーム連携

ドキュメント

教育・育成(何を、
どのように)

外
(Deliver)

知識

エンジニアの
意識

Dev・Test 連携

One for All.
All for One.

このバランスについて
考えていきたい

品質とは
(認識)

次第に良くなる

内向き(個人)

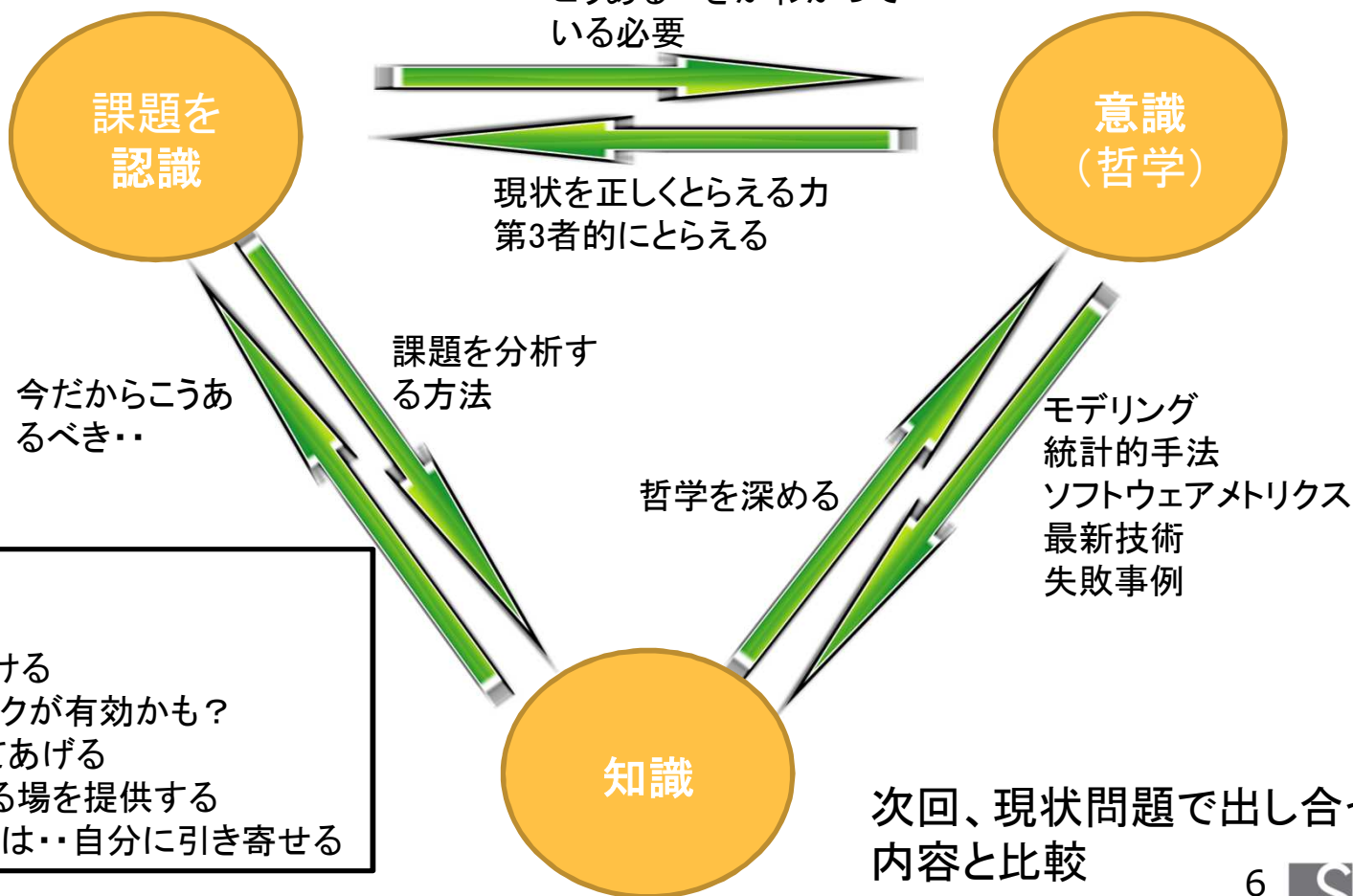
品質保証責任者の会(2014/2/28)まとめ

第5回 デンソー古畑氏を迎えて

課題と思えるか？

課題解決をする為には？

こうあるべきがわかって
いる必要



古畑氏より

- ・考える力を鍛える
- ・説明できる力を付ける

→ライトニングトークが有効かも？

周りから質問してあげる

課題を解決できる場を提供する

自分の問題解決は..自分に引き寄せる

次回、現状問題で出し合った
内容と比較

人財育成(品質技術者の育て方)

第6回具体的に求めることを「意識」「認識」「知識」に分類(KJ法)

①認識

人に対する認識力
現状認識力
今後の予測見通し
分析し説明する力

分析力

②意識

判断力(時期、コスト)
メーカーとしての責任
疑う力
本人の中から生まれる←教育タイミングもある
品質を上げるとコストが下がる

③知識

ソフトウェア知識

経験的知識

ドメイン知識

将来への知識

ベース知識

人財育成(品質技術者の育て方)

第6回具体的に求めることを「意識」「認識」「知識」に分類(KJ法)

①認識

どうすれば上げられるか？

現状認識力

目標・計画→ゴールの明確に書く



- ・とにかく書くことから始める 「書く」を習慣に
- ・何を図れば実態を表すのか？
- ・定期的に図る

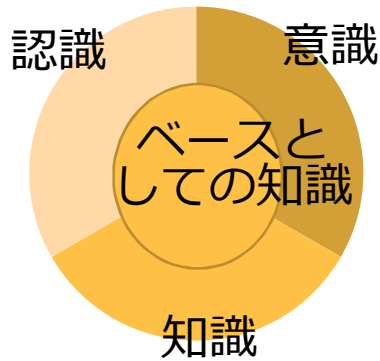
分析し説明する力

[知識]で分析力を学ぶ

- ・説明する機会を与える
→ 誰に・・・同じレベルではなく、いろいろな立場の人に

人財育成(品質技術者の育て方)

第7回具体的に求めることを(スキルモデル)



◎知識 (ハードディスク)

知識とは"ためるもの"

品質とは何? ← 誰かにとっての価値

スキルの中心は
品質に関する「知識」

要求したのができれば
価値はある
要求を正しく理解する

◎認識 (センサー)

認識とは"高い感度をもつ"

センスを磨く・感性を磨く ← いいのも見る/知る
成功事例

成功も失敗も分析し
経験的知識へ

判断のための情報を"正しく"得る

繰り返す

失敗から学ぶ

◎意識 (プログラム)

意識とは"考え判断する"

第3者的視点を持つ

上から、横から
立ち止まって

訓練の方法としてLTをGr.で
行うのも一例<<方法

書く←"見える"ものを作る